



神社本庁長老 櫻井勝之進 謹詠



第七拾号
横田茂長老追悼特集

発行
さいたま市大宮区高鼻町1-407
埼玉県神社庁
電話048(643)3542番
編集室
庁報印刷
アサヒ印刷(株)

「挽歌」

〜謹みて横田茂大人命を偲び奉る誄歌三首〜

庁長 薊田 稔 謹詠

國破れ 山河に退きて 故里の神山に花の 翁とぞ舞ふ
大君の みこと畏み 皇神の寶登の御山に 花咲かせたり
またひとり 先行く道の父去りて 激動の世に 誰を頼まむ

本県神社界の大先達であり、神社本庁長老として斯界に広くその名を知られた寶登山神社名譽宮司・横田茂翁が享年九十歳をもって逝去された。去る十一月三日の文化の日、菊薫るかつての明治節初更のことである。

俗に長寿を全うされたとはいえ、我ら県内神職にとつては惜しむに余りある唐突な永別であった。だが今となっては、嘆きのあまり唯つたない誄歌三首を捧げて、ご生前の偉大な足跡を讃え、遺徳を謝して翁のご冥福を祈るほかに何の手立てがあらうことか。

その一首は、敗戦をもつて青年期の軍籍を閉じられたあと帰郷して実に人生の大半を寶登山神社の興隆に捧げられたそのご生涯が、あたかも見事にご社運の花と咲かせた翁舞いの晴れ姿を見る想いであることを讃えたもの。その二は、『万葉集』巻二十に載る秩父郡出身の防人、大伴部少歳の歌「大君の命畏み愛しけ真子が手離り島傳ひ行く」を本歌採りにして、やはりご生前の温容を花咲翁に言寄せた詠歌。その三は、かねて「道の父」と敬愛してきた翁を失った今の我が身の頼りなさを顧みて心情をそのままに詠じたものである。望むらくは、この誄び歌三首を御前に捧げて、些か翁の御魂鎮めとならんことを。

寶登山の横田茂さんを悼む

神社本庁長老
鶴岡八幡宮名譽宮司

白井 永二

早朝の電話であなたの訃報を聞いた時、電光の如く脳裡を駆抜けたのは「耳ふたぎ餅」といふ民俗語でありました。餅もなく、配る同年令の仲間もゐないと思ひ続ける頃は、耳に当て、ある受話器を投げだして後の話を聞くまいといふ思ひにかられました。

日が経った今はゆっくりお話をしたいと憶ふ氣持が、長二の川辺から広くひらけた参道を面影に立て、あなたの事を思ふ常日頃の心情に返っています。これが老人の仲間から独り遅れて夕陽の空を眺めて忘境に呆けて立つ私の姿のやうな氣も致します。

ですがあなたが友人として居て下さった長い年月は忘れることはありません。何時でも相談に加担して頬笑み、温い心を寄せて下さった長兄でありました。言葉の端々にそれを送信していた、きました。

「午後の紅茶の欲しき頃」。或る委員会の変な雰圍氣を醸し出してゐる發言者の、言葉の間について名句を俳句にしないで、御發言下さった時には、全くその通り。休憩、紅茶と叫んで飲んだ午後の紅茶はおいしかった。室内は一変して笑聲に和み、待つてをりましたと紅茶もすぐに運ばれて来ました。

神様にお仕する私達は神社をお護りするのを本義として、会議のみならず和顔笑語の内にも穏かに取進める。そのことを心底から実践された神社人でありました。あの温顔は俳諧

を楽しんで生涯の友とされた心の現れであったのでせう。

願はくば悠久にその人柄を後に続く者の胸に泌み入るやうに、茂句集を句誌から拾って編んでいた、きたい。

秩父峯に雪は近けむ 雨の音

偲手 二拝

横田茂大兄に捧げる辞

神社本庁長老

岩津天満宮名譽宮司

服部 貞弘

横田茂大兄、十一月五日突然あなたの訃報に接し、一瞬わが耳を疑い、今も信じられない淋しい氣持ちで一杯です。二ヶ月前、九月一日付のお便りを頂いたばかりなのに……。

互いに老骨の身を案じ、私の健康に温かいご配慮を頂き、ご自身のことは「平素周囲から丈夫だ丈夫だとおだてられ、健康を信じ時折の健診など無視してきたが、妻の歿後身心ともに自信が持てなくなり、近く信頼できる医師の指導を受けたいと思つている」と申し上げられたのに。これが最後のお便りとなつてしまいました。繰り返し読ませて頂き、愈々惜別の情に堪えず心から哀悼の誠を捧げます。

昨年五月のお便りには「宮司退任後悠々自適の余生を楽しむべきところ病妻をかかえており、長い間内助に徹して支えてくれた妻に對しせめてもの恩返しのため、老骨に鞭打って介護と家政夫の雑事に努力しております」と書いておられましたのに、奥様は今年

二月に先立つて逝つてしまわれました。今あれこれとあなたのご心境を偲び、深く胸が痛みます。

回顧すれば、あなたが埼玉県神社庁長時代、神社本庁評議員会、更に神道政治連盟中央本部の仕事を通じ、公私にわたつて親密なご交誼に預かつて三十余年。実に充実した懐かしい時代でありました。その間度々秩父へお邪魔に上り、又岡崎の夏の花火見物にもお越し頂きました。平成六年、あなたが神社本庁の長老の称号と鳩杖を頂かれた祝賀の宴を、神政連の連中や親しい者が集まり、目出度く楽しい盃を交わしたことも懐かしく思い出されますが、爾来お互いに公職を離れてからは久しくお目にかかる機会も無く過ぎてしまいました。平成十一年に寶登山神社の総代さんと一緒に遙々当社へご参拝頂き、西浦温泉で旧交を温め夜の更けるのも忘れ盃を重ね合い、翌朝三河湾の日の出に輝く美しい海を共に眺めました。平成十三年五月、私共額田支部の神職総代が寶登山神社へ参拝に上りました。例の花火の歓迎を受け、境内で周囲の目も構わずあなたと抱き合つて再会を喜び合いました。思えばこれがあなたとの最後のお別れになつてしまつたのですね。ああ無情なるかな。

東京時代豪快な呑みつぶりのあなたと二人で深夜の二時まで飲み歩いたことは後にも先にも無いこと、想い出を歌に残しました。

まだねいか 探し歩いて酒呑みし

新宿の夜今ぞ懐かし

今は全てが虚しい想い出となつてしまいま

した。お先に旅立たれた最愛の奥様とお二人で水入らず、安らかにお休み下さるよう、深く深くご冥福をお祈り申し上げます。

横田大人を想う

前埼玉県神社庁長 高麗 澄雄
高麗神社宮司

横田さんの訃報に接した時、実父を失った感情に襲われた。私が庁長就任以来、時々助言やら適切な意見、公私に亘る厚誼を頂戴していただいていたに言いしれぬ寂しさが込み上げてきた。

大人をお称えすべき功績は数多あるが、なかでも『埼玉の神社』の編纂事業が思い出される。

足掛け十七年という歳月をかけて神社庁包括の約二千の神社を洩れることなく調査・執筆したこの事業は、河野省三、西角井正慶両先生の遺志であった。これは戦後の神社界の進むべき方向として、今後の神社のあるべき姿を氏子崇敬者に広め、神職自らが神社の歴史・由緒・習俗等を調べ、神社の存在を明らかにするという、神社庁の懸案となっていたものを具象化したものであった。

これは、横田さんが昭和五十六年庁長在任当時、副庁長であった川口神社宮司竹本佳輝さん、三峯神社宮司宮澤岩雄さんと、神社庁設立四十周年記念事業として発足した。

結果、竹本佳輝さん、そして私と三代の庁長にわたる長期事業となったが、横田さんの斯道の興隆と敬神崇祖の発揚を願った強い思

いと、この大英断を下した先見に心より敬意を表する。

すばらしい遺産を私共に遺していただき、残された者は、この『埼玉の神社』を活かし、用立てることで、悠久に横田さんの思いを生かし続けなければならない。

「寶登山の父」

寶登山神社宮司 中山 高明

平成十四年二月末日を以って横田宮司が勇退され、私が寶登山神社宮司を引き継いだ時、宮司として祭祀を厳修する事により御神徳を広め、神社の尊厳を守るという神職としての第一義は勿論ですが、来る平成二十二年の御鎮座千九百年記念事業を行なう事、そして、いずれは横田名譽宮司をお送りする事が私に与えられた使命と考えておりました。

十月の末に入院された時も、生命に別状はないというお話でしたので、それがこんな早くならうとは思っておりませんでした。

記念事業についても、具体的な計画を進め始めたばかりで、近い内に横田名譽宮司にも御意見・御助言・御協力をお願いしようとしていたところででした。

夏にお会いした時もお元気で、いつも通り好きな煙草を吸いながら、いろいろなお話を伺いました。ただ、今から思えば、この夏の猛暑がこたえていたのか、少し大儀そうだったような気もしております。

私は昭和五十二年四月に寶登山神社へ奉職致しましたが、その時横田宮司はすでに神社

庁長として活躍されていきました。その忙しい日々の中で神明奉仕の心構えや祭式・祝詞・着装・講話等神職としての基礎、また、神社の運営の仕方、更に氏子や講社崇敬者等参拝者への接し方等々実にいろいろな事を教えて戴きました。しかし、その多くは実際に御本を示す中で言わば無言の教えでした。

私はあまり叱られた事はなく、むしろ褒めて戴いた事が多かったと思います。今年の二月、勇退前から親身に看病をされ、お互いに支え、支えられていた最愛の奥様に先立たれ、その葬儀に齋主として御奉仕した時、お褒めの言葉を戴いたのが最後でした。

かつて、横田宮司の特級昇進の祝賀会の折、秩父神社の園田稔宮司は「道の父」という言の葉を以ってお称え戴きました。

埼玉県神社庁長・神社本庁常務理事・神政連中央本部副会長等神社界は固より、長二町に於いても教育委員長・観光協会会長等数多の要職に就き、神社本庁長老の称号を受ける等、横田茂大人命を称える言の葉は多々有ろうかと存じます。

宮司として昭和二十年より五十六年余、更に名譽宮司として二年余、合わせて五十九年という長きに亘り寶登山神社に奉仕され、特に戦後の混乱期を乗り越え、神社の基礎を固め、発展させた御功績は言葉では言い表せないほど多大なものがあります。あえて私は「寶登山の父」の敬称を贈り、万感の思いを込めて感謝と追悼の言葉と致します。

神社本庁長老横田茂寶登山神社名誉宮司の主な経歴

大正4年3月31日
昭和12年3月

5149494746464242
年 年 年 年 年 年
10112 6 12
月 月 月 月 月 月

父横田朝一・母サクの二男として秩父町に出生
 國學院大學高等師範部卒業
 満州国の関東軍自動車第一聯隊に入營
 近歩五野戦部隊に転出
 一日召集解除 南方より帰郷
 秩父商業学校教諭
 父横田朝一寶登山神社社司就任
 再び臨時召集により浦和聯隊区司令部動員課付
 県社寶登山神社社司拝命
 法令改廃 改めて寶登山神社宮司となる
 神職階位明階を授かる
 寶登山神社紅葉祭復活
 埼玉県神社庁教化委員
 寶登山神社奥宮造営成る
 埼玉県神社庁理事(二年三月迄)
 埼玉県神社庁教化委員長(四年二月迄)
 寶登山神社参道拡幅成る
 秩父セメント社長諸井貫一氏大鳥居奉納を記念し、
 関東近県宝登山ロードレース大会を創始
 寶登山神社が神社本庁「別表神社」に加列
 寶登山神社御鎮座一八五〇年記念事業始まる
 撰社始め境内整備進む
 宝登山に空中索道架設
 野上町(現在長二町)教育委員長
 神社本庁評議員(二期)
 寶登山神社社務所新築成る
 寶登山神社二の鳥居奉納成る
 寶登山神社神楽殿成る
 神社本庁参与(平成六年一月迄)
 埼玉県神社庁副庁長(五十一年
 一〇月迄)
 神職身分二級上
 神宮評議員 伊勢神宮崇敬会評
 議員(平成一年一月迄)
 神道政治連盟埼玉県本部幹事長
 寶登山神社儀式殿成る
 神道政治連盟中央本部副幹事長
 神職身分淨階・一級
 長二町観光協会会長就任
 埼玉県神社庁長(平成元年三月迄)



51年10月
51年5月
53年5月
53年4月
54年4月
55年6月
56年4月
57年6月
57年6月
58年6月
58年6月
61年2月
61年6月
62年11月
平成元年3月
元年4月
元年6月
2年4月
6年2月
9年
14年3月
16年2月7日
16年11月3日

神道政治連盟埼玉県本部長(五四年三月迄)
 寶登山神社御本殿改修仮遷座
 埼玉県英霊にこたえる会副会長
 寶登山神社御本殿改修正遷座
 寶登山神社誌「寶登山」上梓
 神社本庁表彰委員(五八年五月迄)
 「埼玉の神社」調査刊行委員長
 神社本庁評議員会副議長
 寶登山神社客殿新築・玉泉寺寄進
 神道政治連盟中央本部副会長(平成四年五月迄)
 神社本庁懲戒委員(二一年五月迄)
 神職身分特級
 神社本庁理事(平成元年五月迄)
 第六十一回神宮式年遷宮奉賛会埼玉県本部副本部長
 神社本庁常務理事
 埼玉県神社庁顧問
 神社本庁人事委員(平成四年五月迄)
 寶登山神社御大典奉祝事業・末社造営
 神社本庁より「長老」の敬稱と鳩杖を賜う
 御在位十年記念事業・拜殿屋根葺替・樹苑整備
 寶登山神社名誉宮司受稱
 令室美江刀自逝去
 逝去 享年九十

